

不織布トンネルによるカボチャの省力栽培法

カボチャの早熟作型におけるトンネル被覆資材に不織布を利用することで換気作業を省力化

背景・目的

- ・5～7月収穫のカボチャはPOによるトンネル被覆栽培が行われているが、屋間高温になるため温度管理が必要。
- ・トンネル換気には多くの作業時間を要し、規模拡大の妨げになっている。
- ・そこで、トンネル換気作業の省力化を目的に不織布を用いた省力技術を確立する。

成果の内容

不織布を利用するとトンネル換気は不要。
移植栽培でPOトンネル栽培と同等の収量を確保。

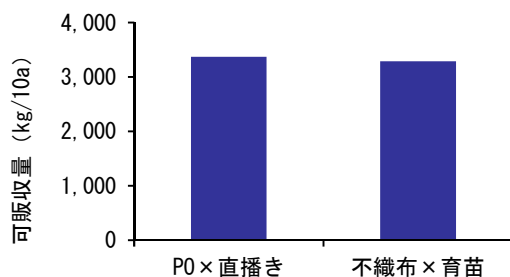
POトンネル栽培の課題



PO被覆は、換気が必要で、規模拡大阻害要因に。換気遅れで、トンネル内は50℃以上になり、高温障害が発生。

トンネル被覆資材に不織布を利用すると

- トンネル換気は不要(最高気温は40℃以下)
- POトンネルと不織布トンネルの収量は同等
- ただし、直播き栽培では欠株発生の危険。
不織布栽培では、移植栽培とする。



導入メリット

**換気作業に必要な労働時間が削減され
栽培面積の拡大が可能**



トンネル被覆資材に不織布を用いた場合、トンネル換気は10a当たり70時間削減。
※不織布はスーパーパスライトを使用。

期待される効果

- ・トンネル換気に要する労力を栽培面積拡大へ振り向けられる。

普及対象・範囲
カボチャ栽培者
3月の平均気温(平年値)が約12℃(気象庁:アメダス)以上の地域